

☆キラッと看護☆

「癌末期の患者さまと行った一泊温泉旅行」

生協戸塚病院 師長室

【医療生協かながわ】の…

20年前の新人看護師だった私には、今でも忘れられない『思い出』があります。それは癌末期の患者さんの願いに応えた「一泊温泉旅行」に付き添えたことでした。

お風呂が大好きだったTさんに、ご主人は『どうにか最後の思い出となる温泉旅行へ連れて行きたい』と話されました。一日何度も痛み止めの注射を使っていたTさんにはご主人と2人だけで旅行することはとうてい不可能なことは承知の上で、それでも『最愛なる妻へ何かしてあげたい』という優しさに、私は『何とか力になりたい!』と思いました。しかし、新人1人では何も判断できない私は『道中、任せておいて!』
・・・なんて自信を持って言える訳もなく、主治医に相談しました。主治医は『注射持って、行ってきていいよ!』と、答えてくれました。

私はTさんに付き添うことを一大決心しましたが、本音は不安な気持ちでいっぱいでしたので、同期の新人と2人で付き添うことにしました。出発日が近づくと、主治医も『自分の車で一緒に行くよ!』と言ってくれて、とてもホッとしました。主治医は、旅館で夕食を一緒にしたあと帰りました。残された私たち2人は、病院にたどりつくまで緊張の連続で、生きた心地がしませんでした。でも、温泉に入っていた時のあのTさんの嬉しそうな顔を見たら、『ご主人から相談を受けたこと、思い切って同行できたこと』に感謝の気持ちが込み上げてきました。同時に、患者さん思いの医師と共にチーム医療ができることに誇りを持ってました。

私が今でも働き続けられるのは、こういった『素晴らしい思い出、看護のたからもの』があるからだと思います。今いる戸塚病院の仲間にもっとも〜っと『戸塚病院の素晴らしさ』を伝えていきたいです。

